4.

「卑弥呼の邪馬台国」の候補地を訪ねる【1】

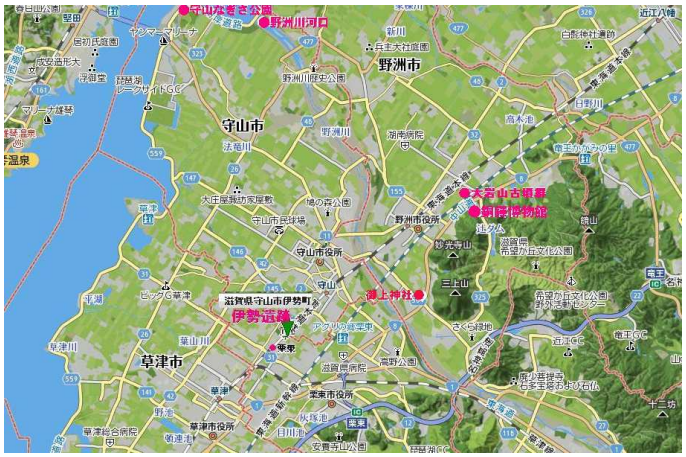
魏志倭人伝の記述《卑弥呼の居処には「宮殿」・「祭殿」・「楼閣」・「城柵」》すべてがそろう大集落

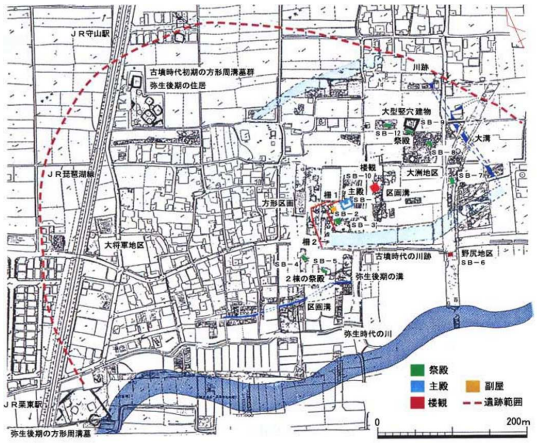
東近江　野洲川南の湖岸近く　弥生後期の大集落「伊勢遺跡」を訪ねる

2012. 11. 21.　&　2013. 2. 11.　滋賀県守山市伊勢町



野洲川河口から伊勢遺跡のある野洲・守山市方面　左端から近江富士　其の横奥に信楽・田上の山々　2013. 2. 11.



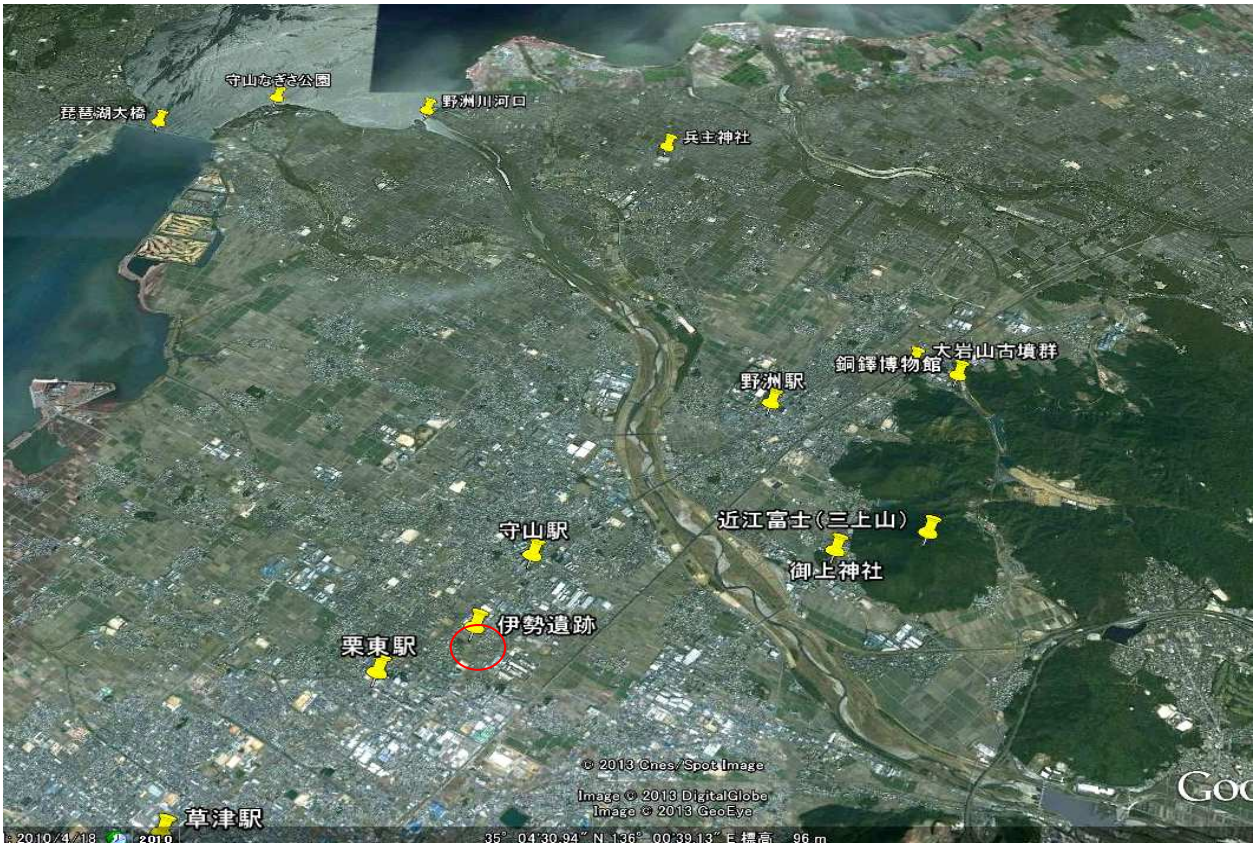


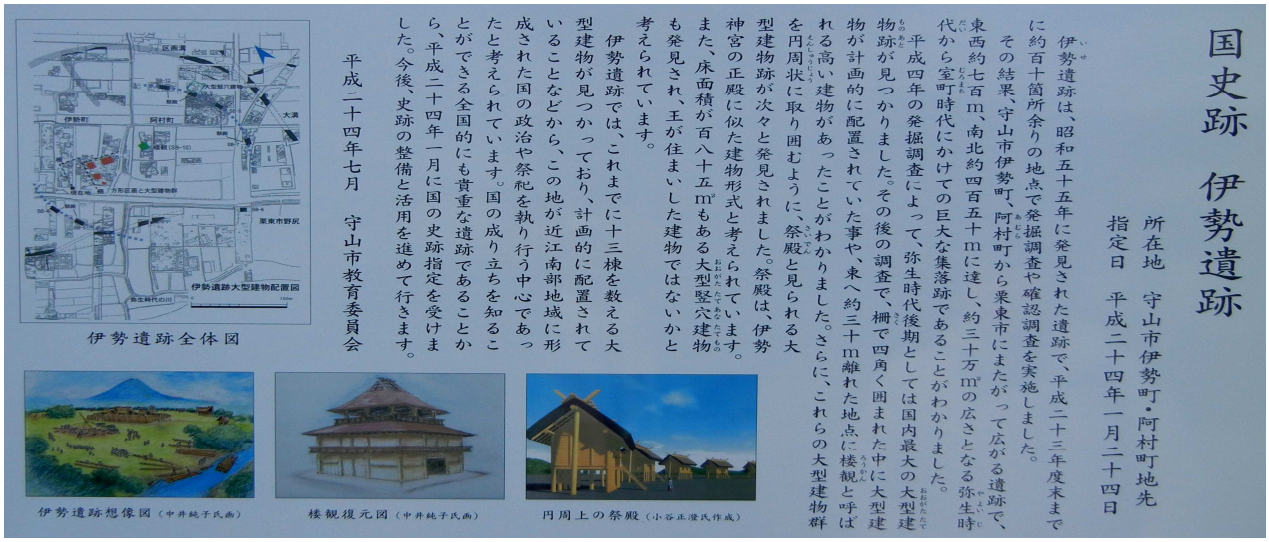


魏志倭人伝には　卑弥呼の居所には「宮殿・祭殿・楼閣そして城柵がある」と記述されたそんな国の機能を有した弥生の大集落が、邪馬台国出現直前の１～２世紀　唯一東近江にあったという。

場所は東近江　琵琶湖へ南の鈴鹿から流れ下る大河　野洲川の琵琶湖河口近くの平野部　守山市伊勢町。

「伊勢町」の名が示すごとく、琵琶湖の東岸を東西に結ぶ街道と北からは琵琶湖を介して山陰・北陸そして大陸とつながり、南には野洲川沿いを鈴鹿へ溯り、伊勢・東国や大和へつながる交通の要衝。縄文時代から数多くの人達が往来した近江平野の中心部で、この集落北東側　野洲川の岸の向こうには東近江のシンボル「近江富士・三上山」が秀麗な姿を見せる。





国史跡　伊勢遺跡

所在地　守山市伊勢町・阿村町地先
指定日　平成二十四年一月二十四日

伊勢遺跡は、昭和五十五年に発見された遺跡で、平成二十三年度末までに約百十箇所余りの地点で発掘調査や確認調査を実施しました。

その結果、守山市伊勢町、阿村町から栗東市にまたがって広がる遺跡で、東西約七百m、南北約四百五十mに達し、約三十万㎡の広さとなる弥生時代から室町時代にかけての巨大な集落跡であることがわかりました。

平成四年の発掘調査によって、弥生時代後期としては国内最大の大型建物跡が見つかりました。その後の調査で、柵で四角く囲まれた中に大型建物が計画的に配置されていた事や、東へ約三十m離れた地点に楼観と呼ばれる高い建物があったことがわかりました。さらに、これらの大型建物群を円周状に取り囲むように、祭殿と見られる大型建物跡が次々と発見されました。祭殿は、伊勢神宮の正殿に似た建物形式と考えられています。また、床面積が百八十五㎡もある大型竪穴建物も発見され、王が住まいした建物ではないかと考えられています。

伊勢遺跡では、これまでに十三棟を数える大型建物が見つかっており、計画的に配置されていることなどから、この地が近江南部地域に形成された国の政治や祭祀を執り行う中心であったと考えられています。国の成り立ちを知ることができる全国的にも貴重な遺跡であることから、平成二十四年一月に国の史跡指定を受けました。今後、史跡の整備と活用を進めて行きます。

平成二十四年七月　守山市教育委員会

伊勢遺跡全体図

伊勢遺跡想像図（中井純子氏画）

楼観復元図（中井純子氏画）

円周上の祭殿（小谷正澄氏作成）

伊勢遺跡の大集落と指呼の距離にあるこの近江富士・三上山の麓の丘大岩山からは入子の形で埋納された２０を超える銅鐸が出土し、伊勢遺跡と共に、弥生の末に起きた銅鐸・青銅器から鏡・鉄器の時代へ古墳時代の幕開けに大きな役割を担ったことを示している。

また、伊勢遺跡からは「国」の様相を示す魏志倭人伝に記載されたとおりの遺構がそっくりそのまま出土したばかりでなく、「弥生の大集落では、通常　鏃などの武器類を大量に出土するにもかかわらず、この伊勢遺跡からは武器類が出土しない」との特異性も有している。　邪馬台国大和説を想定すれば、多くの国に擁立された卑弥呼がこの伊勢遺跡から、纒向遺跡へ平和裏に移っていったのではないか・・・とのイメージを話す研究者もいる。

2012 年 9 月 30 日　兵庫県立考古博物館シンポ「卑弥呼がいた時代」で「東近江に　卑弥呼の居処を思わせる大型建物が建ち並ぶ吉野ヶ里や纒向遺跡に匹敵する大集落があった」と熱っぽく東近江伊勢遺跡を語る日本考古学協会理事森岡秀人氏の講演を聞いて、ビックリ。これは是非見に行ってこなければ・・・・と

この東近江には日本列島の東西・南北交流の十字路　古くから数々の遺跡があり、渡来人も数多くやってきた場所と知るのですが、卑弥呼の時代の直前の１～２世紀に弥生後期に　邪馬台国につながる王城遺構を持つ大集落があったとは初めて聞く話。ほとんど知りませんでした。



野洲川河口近く　守山なぎさ公園より　一面まっ黄の向こうに比良の山々を背に琵琶湖　2013.2.11.

伊勢遺跡の北側にあたる位置で、琵琶湖そして比良の山がこんな風に見えていたかも知れない



伊勢遺跡　北側を眺める　　2012.11.21.　　右端　西に比良　左端　東に近江富士が見えている







伊勢遺跡　南側を眺める　　2012.11.21.　　左端に近江富士右端に田上の山並

この山並の間を鈴鹿から野洲川流れ下り、その川筋を溯り鈴鹿から伊勢・東国や信楽・大和への古道が続く

2012 年 11 月 21 日　思い立って　東近江の伊勢遺跡見学に行ってきました。

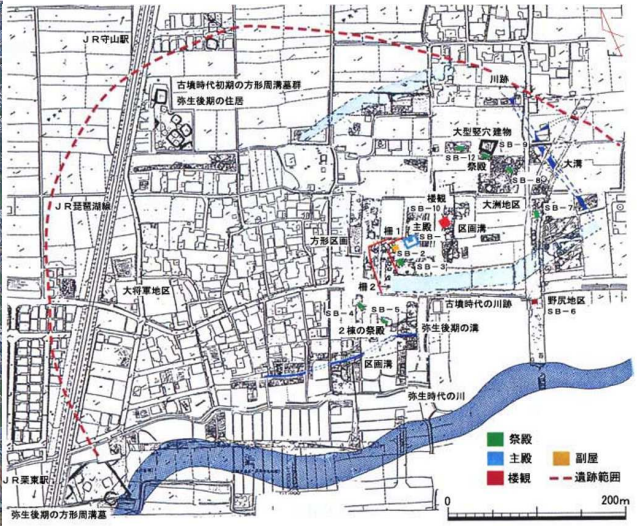
また、11 月出掛けたときには　野洲川河口や琵琶湖湖岸へは行けなかったので、この守山市の野洲川河口の湖岸にある「なぎさ公園」の菜の花畑が満開になつた 2 月 11 日再度訪問しました。

胸を膨らませて出かけた卑弥呼の宮殿を思わせる東近江弥生の大集落　「守山市　伊勢遺跡」の訪問記です。

魏志倭人伝の記述《卑弥呼の居処には「宮殿」・「祭殿」・「楼閣」・「城柵」》すべてがそろう大集落

1.　弥生時代後期　都市機能を備えた近江の大集落　守山市「伊勢遺跡」　概要







伊勢遺跡は守山市伊勢町集落を中心に広がる弥生時代後期の環濠集落。遺跡は東西にのびる標高 98m 前後の微高地上に立地していて、その規模は過去 30 次以上の調査から、東西約 700m、南北 400m と推定されている。

遺跡の東端（大洲地区）と北端、西端では幅 3m 以上の大溝の一部が見つかっていて、南端で検出された自然河道（幅 20m 以上）にとりつくように集落の周りを巡っていると考えられる。

西端の大溝のすぐ西側には 8 基の方形周溝墓が発見されていて、他にもこのような墓域のあることがわかっている。

集落内部では竪穴住居 50 棟以上（うち五角形住居 5 棟）をはじめ掘立柱建物、多数の柱穴、土壙、溝などを検出。

遺跡の中心部には柵で四角く区画された内側に床面積 80 平方メートルを越える大型建物「主殿」を中心に形式の異なる建物群が整然と配置された地点（18 次・21 次調査地点）がある。

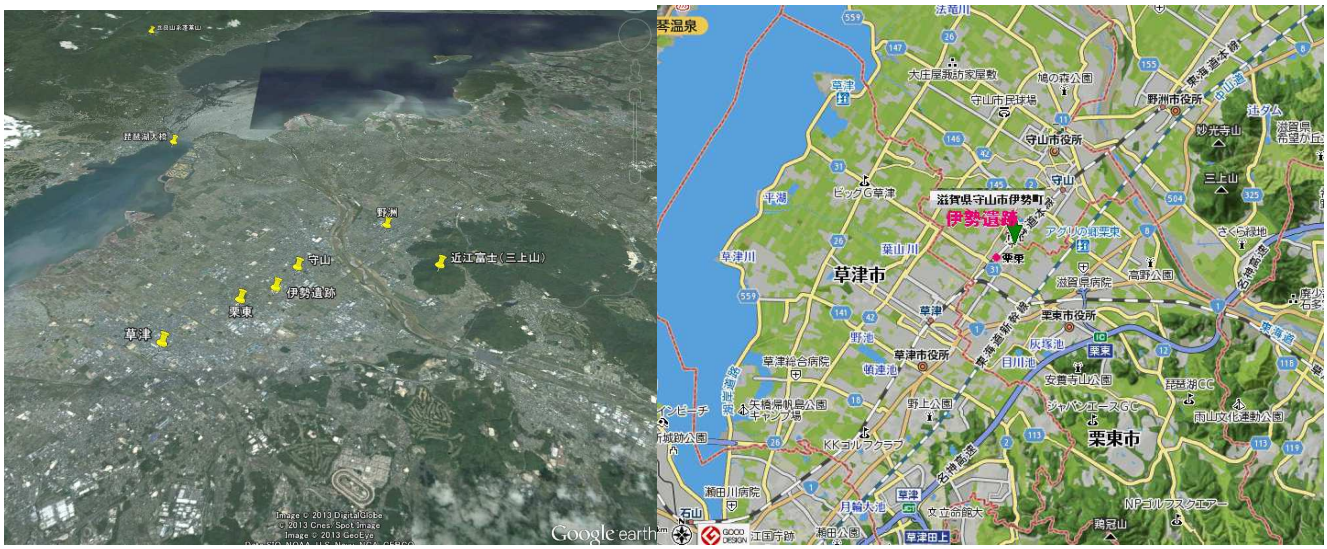
またこの中心区画の西側 70m には独立棟持柱建物「祭殿」（床面積 42 平方メートル）また東側の大洲地区では同じ形式の大型建物が 2 棟、



さらに南側 130m の地点（栗東町野尻遺跡）では屋内に棟持柱のある大型建物 1 棟が発見されているなど、

遺跡の中枢部やその周辺に大型建物が集中し、おそらく、これらの地点が政治や祭祀を行う重要な場所。

伊勢遺跡は近江の同時代の集落と比較しても規模や内容で郡を抜いていて、2～3 世紀の「クニ」を治める王が住まいした中心的な集落であったと考えられている。



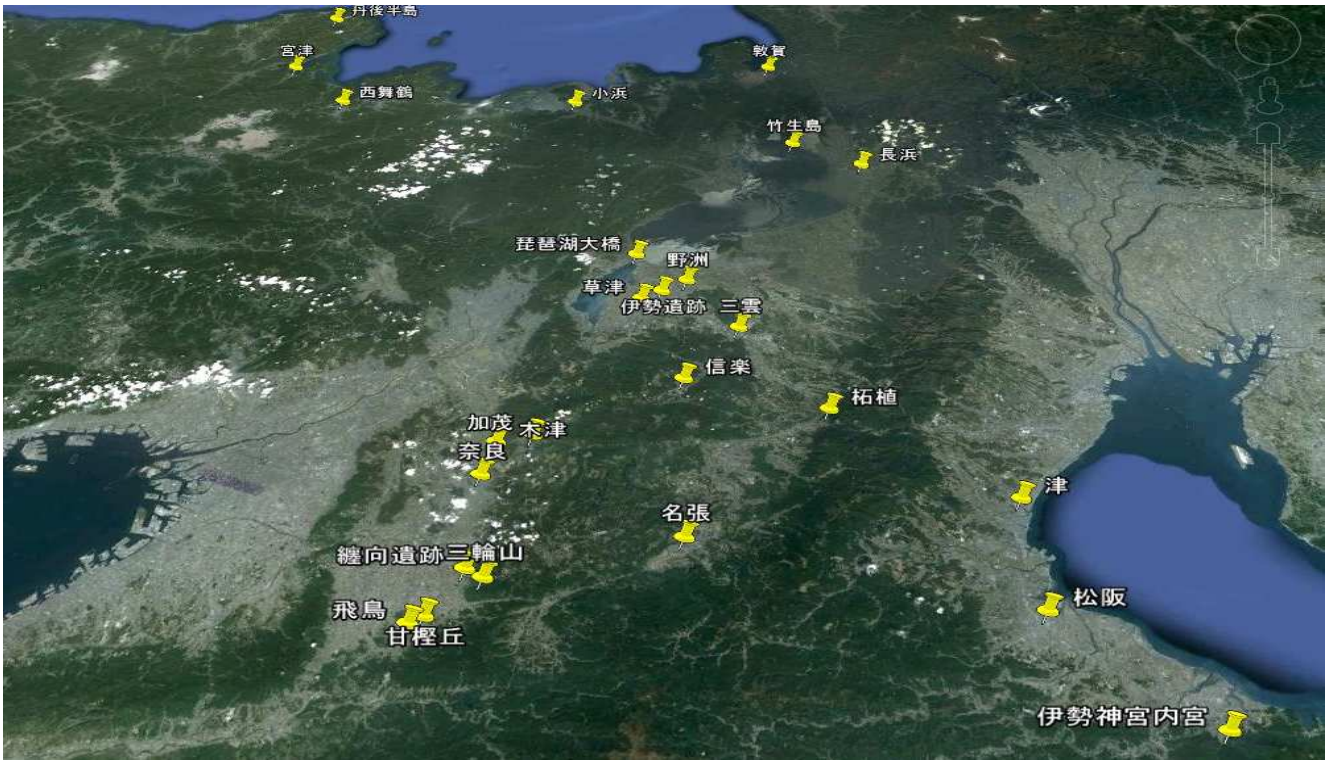
魏志倭人伝によれば、卑弥呼の住まいには「居処、宮殿、楼観、城柵」と記述されている。

この伊勢遺跡は「卑弥呼「邪馬台国」直前の弥生時代末の時代に 「居処」・政治の中心「主殿」祭祀の「祭殿」・「楼閣」・「城柵」があったことが明らかになっている。

また、戦乱の弥生時代後期の戦乱の時代にあって、武器類や焼け跡が全く見つかっていない。

橿考研共同研究員森岡秀人氏は「戦争による征服ではなく祭政の力を通じ、周囲の勢力を統合し、朝鮮半島などとも関係をもっていたのでは」と推論し、また、「邪馬台国の成立前、祭政による統治の場が確認されているのは伊勢遺跡だけであり、 邪馬台国はこの伊勢遺跡の統治法を引き継いだ可能性もあり、少なくとも卑弥呼擁立に影響を持っていたのでは?」と分析する。

－ 2012年9月30日　神戸「卑弥呼がいた時代」講演会「卑弥呼と邪馬台国・倭国」森岡秀人氏講演より



大陸−琵琶湖−近江・伊勢遺跡−纒向遺跡・大和 ＆ 東国を結ぶ位置関係

◎ 伊 勢 遺 跡 概 要

http://www2.city.moriyama.shiga.jp/iseiseki/ise1top.htm より整理

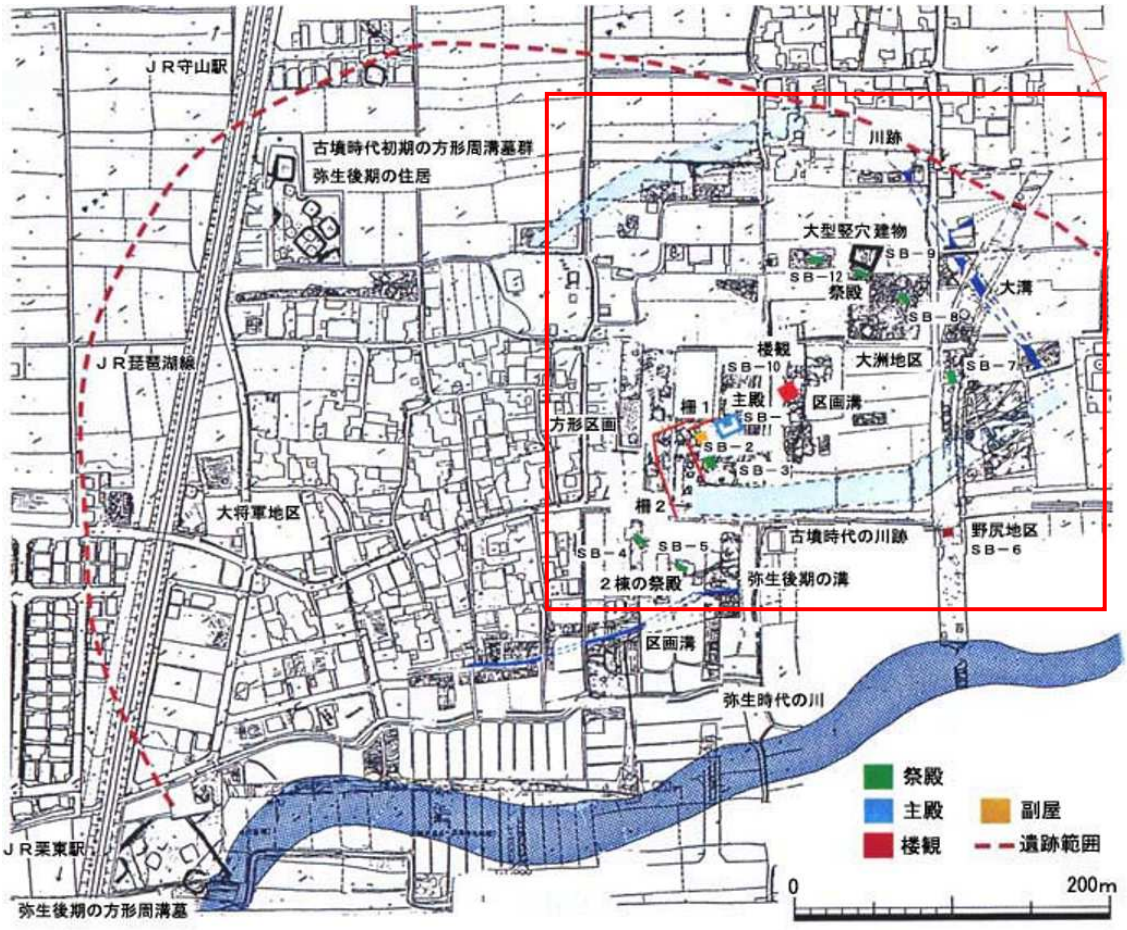
守山市ホームページ http://www2.city.moriyama.shiga.jp/keitai/ より



昭和 56 年（1981 年）、滋賀県守山市伊勢町、阿村（あむら）町、栗東市野尻（のじり）にかけて、弥生時代後期の巨大な集落遺跡が広がっていることがわかった。その後、平成 19 年３月までに実施した 104 次にわたる発掘調査で、伊勢遺跡は東西約 700m、南北約 450ｍの楕円形状に形成されていることが明らかになっている。

集落が営まれた時代は、縄文時代後期から室町時代で、最も栄えた時代は弥生時代後期（紀元１～2 世紀）。

遺跡は、南と北にある低地に挟まれた微高地にあり、東から西にかけて傾斜する土地にある。

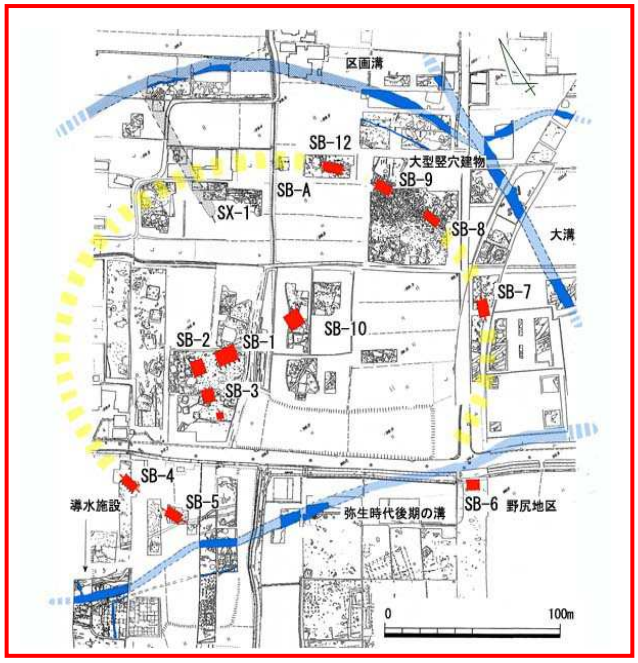


弥生時代後期の建物跡には、竪穴住居と掘立柱建物の２種類の建物跡があり、竪穴住居の平面形には　円形と方形そして五角形の３種類がある。また、掘立柱建物の規模には大小が見られ、ここでは床面積が 30 ㎡以上のものを大型建物と呼んでいる。

遺跡の西半部には竪穴住居が広がり、東半部の大型建物跡が無くなると、その上にも竪穴住居が造られるようになる。

遺跡の西側では、溝を挟んで方形周溝墓が築かれているが、弥生時代集落の有力者の墓域であったと推定される。

遺跡の東端では、幅約７m、深さ２ｍ以上もある大きな堀のような大溝があり、北側は方形周溝墓、南側は、旧河道であったと推定される。



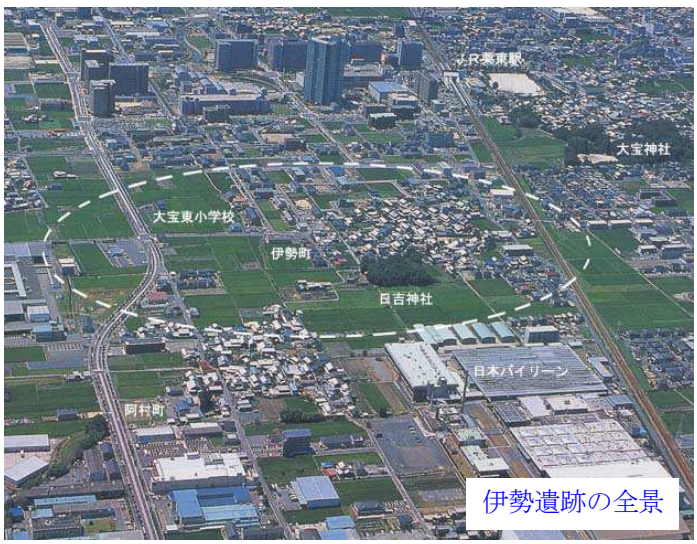


魏志倭人伝によれば、卑弥呼の住まいには「居処、宮殿、楼観、城柵」と記述されている。
この伊勢遺跡は「卑弥呼「邪馬台国」直前の弥生時代末の時代に 「居処」・政治の中心「主殿」祭祀の「祭殿」・「楼閣」・「城柵」があったことが明らかになっている。
また、戦乱の弥生時代後期の戦乱の時代にあって、武器類や焼け跡が全く見つかっていない。
橿考研共同研究員森岡秀人氏は「戦争による征服ではなく祭政の力を通じ、周囲の勢力を統合し、朝鮮半島などとも関係をもっていたのでは・・」と推論し、また、「邪馬台国の成立前、祭政による統治の場が確認されているのは伊勢遺跡だけであり、 邪馬台国はこの伊勢遺跡の統治法を引き告いだ可能性もありうる。少なくとも卑弥呼擁立に影響を持っていたのでは?」と分析する。

-2012年9月30日　神戸「卑弥呼がいた時代」講演会 「卑弥呼と邪馬台国・倭国」森岡秀人氏講演より

1．　弥生時代後期の巨大集落

伊勢遺跡は、東西方向がＪＲ琵琶湖線のすぐ西側から阿村町東端まで、南北方向は栗東市立大宝東小学校から日本バイリーン南側までの範囲に広がり、面積は約 30 ヘクタール。弥生時代後期の集落としては佐賀県吉野ヶ里遺跡、奈良県唐古・鍵遺跡などと並んで国内最大級の遺跡である。近畿地方の集落遺跡は、中期の巨大環濠集落が解体して、小さな集落に分散居住することが特徴で、後期になって伊勢遺跡のように巨大化する集落は稀である。



伊勢遺跡の全景

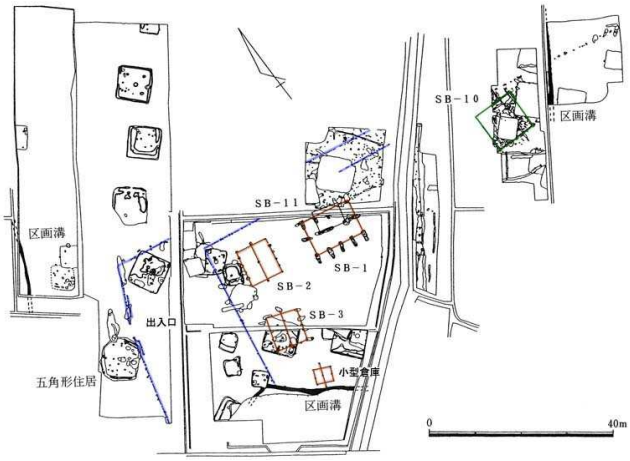
２．　次々と発見される大型建物

遺跡の東半部では、弥生時代後期の大型掘立柱建物が合計 12 棟も発見されている。

現伊勢町集落のすぐ東側は、方形の柵で囲まれた中に大型建物３棟と小型の倉庫がＬ字状に配置された特殊な画が存在することがわかった。ＳＢ－１（平成４年（1992）発見）、ＳＢ－２、ＳＢ－３、小型の倉庫（平成７年発見）から成る政治の場であったと推定されている。

また、その東側 30m の地点には３間×３間の楼観（ＳＢ－10、平成 10 年（1998）発見）、そしてこの楼観を中心にして半径 110m の円周状に配置された６棟の独立棟持柱付建物と屋内に棟持柱を持つ大型建物（ＳＢ－６）（平成６・７・10・13 年（1994・1995・1998・2001））が発見されている。

さらに平成 13 年（2001）には、円周状の建物群の外側で床面積が 185 ㎡を測る大型竪穴建物が発見され、この建物の壁にはレンガ状の焼物が置かれ、床が赤く焼かれており、特殊な建築技術がみられた。



方形区画の平面配置図

佐賀県吉野ヶ里遺跡、栗東市下鈎遺跡で数棟ずつの発見例はあるが、伊勢遺跡では多種多様な大型建物が 12 棟も集中しており、国内に類例を見ない。

３．　弥生の国の中心部を考える遺跡

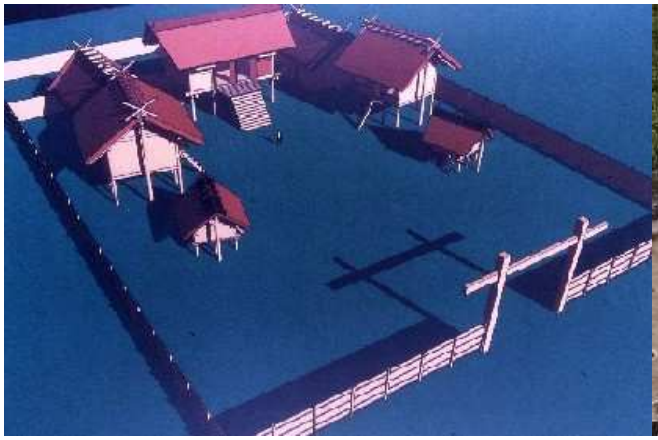
伊勢遺跡は、紀元 140 年～180 年頃にあったという倭国大乱の時代に最盛期を迎える遺跡。

中国の書物である『三国志』魏志倭人伝には当時、列島内には 30 ほどクニがあり、中国に物資を献上し外交を行っていましたが、140 年頃から 180 年頃にかけて国内で大乱があり、その後、卑弥呼が共立されて女王になったとの記録があります。伊勢遺跡で発見された大型建物は、卑弥呼共立直前の建物であり、ここに近江を代表するクニの中心部があって、様々な政治的儀式やまつりごとが行われていたと考えられている。

魏志倭人伝には卑弥呼の住まいには「居処、宮殿、楼観、城柵」などの施設があると記されていますが、伊勢遺跡は倭人伝に記された卑弥呼の住まいを彷彿とさせる。

伊勢遺跡は国の中枢部の構造を探ることのできる遺跡として高い評価を受けています。


方形区画の復元ＣＧ（大上直樹氏作成）
［右からＳＢ－１、２、３、小型倉庫 ］


方形区画復元ＣＧ左右対称案　（大上直樹氏作成）


方形区画内で検出された大型建物　（ＳＢ－１）

４．　円周状配置の大型建物

大洲地区では円周状配置の建物群の外側に幅３～６ｍの弧状にのびる区画溝があることがわかってきた。

約 18m間隔で弧状に配置された建物は独立棟持柱（どくりつむなもちばしら）を持ち、梁行（はりゆき）１間×桁行（けたゆき）５間（約 4.5m×約９m）で規格性が見られ、壁の外側に棟持柱があり、屋内の中心部にも心柱があるのが特徴。両外側の柱は、屋根の棟柱を支える柱で、少し内側に傾斜して建てられ、中心部の柱はやや細いものが使われている。独立棟持柱があり、心柱を持つ点は、伊勢神宮本殿にも共通するもの。

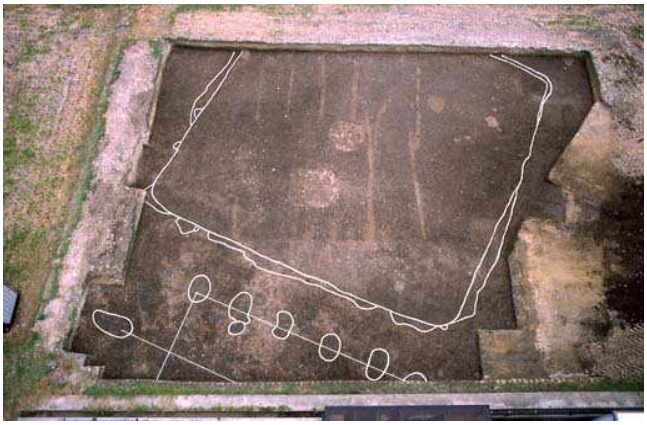
建築学の宮本長二郎氏は、伊勢遺跡で次々並んで発見される祭殿は伊勢神宮本殿の創立に深くかかわりをもつ遺跡と評価している。



棟持柱をもつ大型建物　（ＳＢ－12）



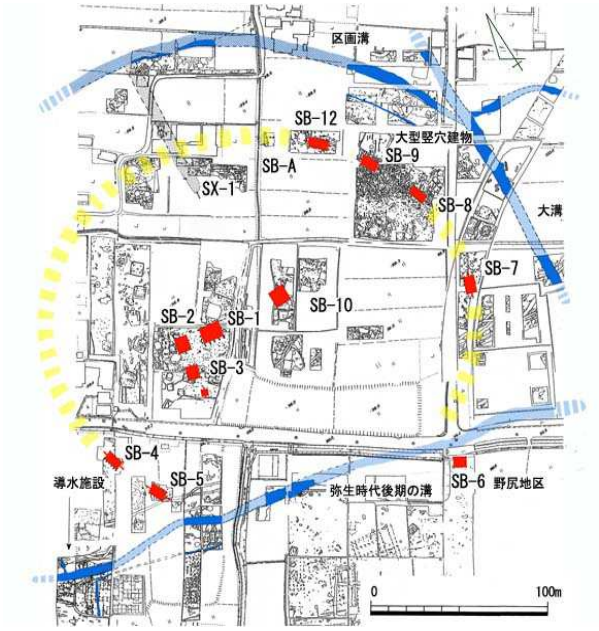
棟持柱をもつ大型建物　（ＳＢ－８）



棟持柱をもつ大型建物（ＳＢ－９）と大型竪穴建物



棟持柱をもつ大型建物（ＳＢ－４）



大型建物　円周状配置想像図



円周状配置の大型建物群想像図（小谷正澄氏作成）

５．　東西日本の結節点

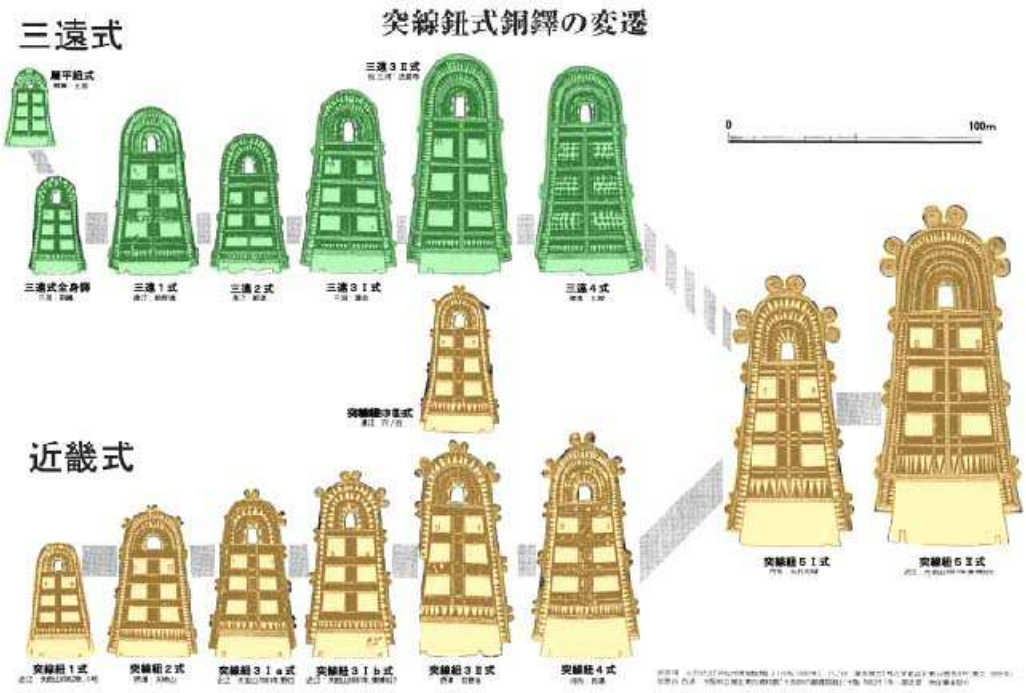
近畿地方では弥生時代後期の大型建物のある遺跡は少なく、伊勢遺跡の特異性が際だっている。

伊勢遺跡から東へ約８㎞離れた野洲市大岩山では 24 個もの銅鐸が出土している。

突線紐式と呼ばれる弥生時代後期につくられた銅鐸で、西日本に分布する近畿式銅鐸と東海地方に分布する三遠式銅鐸が一緒に埋納されていた。銅鐸が埋められた時期は弥生時代の終わり頃と推定され、伊勢遺跡の衰退期に重なっている。

　弥生時代の終わり頃に、東西の銅鐸が野洲川流域に集められ、埋納されていることから、伊勢遺跡は東西日本の結節点として機能していたとも考えられる。

古墳時代の開始に先立って、東西のクニの長が、伊勢遺跡に集まって、祭祀を行い、政治的な協議を行っていたのではないかとも考えられている。



銅鐸の形とその種類（「小篠原大岩山出土の個人収蔵銅鐸について」　進藤武『野洲町立歴史民俗資料館研究紀要　第４号　1994 年　より加筆転載）



伊勢遺跡から出土した手焙り型土器



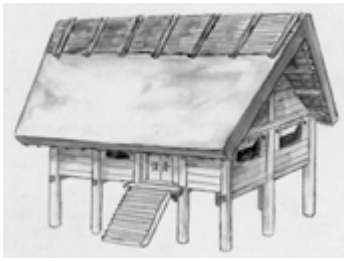
水銀朱が塗られた土玉　（方形区画内出土）

《　参考　広報守山　2012.7.15.　「　祭祀と政治　一体から分離　　伊勢遺跡　」　》

http://www2.city.moriyama.lg.jp/koho/990715/index2.html

伊勢遺跡で、平成 4 年（1992）に検出した高床式大型掘立柱建物跡に重複して、さらに古い高床式建物跡が存在していたことを、2012.7 月 1 日に市教委が発表。

二つの建物からは、約 20～30 年の時間差の中で、一体化していた政治と祀りが機能分化して行く過程がうかがえる。



東西約 700m、南北約 400m の楕円形の巨大な弥生時代後期（2 世紀）の集落跡である伊勢遺跡は、昭和 56 年（1981）に発見され、これまでに、61 ヶ所を調査し、「王の居館」、「方形区画」、「楼閣」、二棟連なった「祭殿」などが確認されている。

今回の発表（2012.7.）は、平成 4 年に調査を行った地点の北隣で、今年 5 月から確認調査を進めていてわかったもの。

平成 4 年（1992）当時に確認された高床式大型掘立柱建物跡の未確認となっていた部分を調査したことで、その大きさを確定するとともに、その北側に二列の柵を発見した。さらに、高床式大型掘立柱建物跡の一部と考えていた内側の柱は、柱穴の相互関係や出土品などから、さらに 20～30 年古い高床式建物の柱であることが確実となった。



今回確認された高床式建物跡は、建物の方位や大きさ、遺物などから、南西 30m の位置にある祭殿と見られる建物の付属建物と考えられる。一方、高床式大型掘立柱建物は王が政治を司った建物と考えられ、柵で区分された方形区画の内側にあり、さらに、同時期には、この区画の外側で祭殿と見られる建物跡も確認されている。

また、高床式大型掘立柱建物跡の北側で確認された二重の柵跡は方形区画を構成する柵の一部で、これまで確認されていた一重の柵の外にも柵が存在していたとの想定を裏付けることとなった。

これらのことから、高床式建物が建てられていた時代には、政治と祭祀が区別されずに行われていたものが、これが取り壊され、政治の場となる高床式大型掘立柱建物が建てられたと考えられる。

さらに、その際には、方形区画がつくられ、厳重に二重の柵で守られた区画の内側では、王による政治が行われ、祭祀の場は、外に分離されたのではないかと見られています。この間は、わずか 20～30 年であるとされることから、機能分化の過程を示す貴重な資料と言えます。

《　参考　インターネット 伊勢遺跡　発掘調査の現地説明資料より　》

2003 年発掘調査現地説明　発掘の成果

（1）大型竪穴建物（SH－1）は一辺 13.6m を測る方形プランで、床面積約 185 ㎡に及ぶ国内最大級の建物であることが判明した。

（2）内部調査の結果、3 箇所で主柱穴が検出された他、屋内棟持ち柱が 1 箇所で検出されました。主柱穴 P－1 は長径 1.6m、短径 1.3m、深さ 0.9m、P－3 は径 1.0m、深さ 0.9m です。屋内棟持柱 P－4 は長径 0.8m、短径 0.6m、深さ 0.6m の規模です。これらの柱穴に柱根は残っていません。主柱穴間の距離は東西（P－1、P－2 間）7.5m、南北（P－1、P－3 間）7.2m です。

（3）床面からは、近江在地の壺や甕、河内地域の広口壺が出土したほか、鉢・器台など日常生活に使用された弥生土器が出土した。これらの土器から、弥生時代後期（1 世紀末から 2 世紀初頭）の建物であることがわかった。

（4）壁際で、約 1.9m 間隔で柱穴（補助柱）が検出された。

（5）壁際で、幅約 30cm 前後の炭化した板材が出土した。

（6）レンガ状焼き物が、壁際で倒壊した状態で出土した。

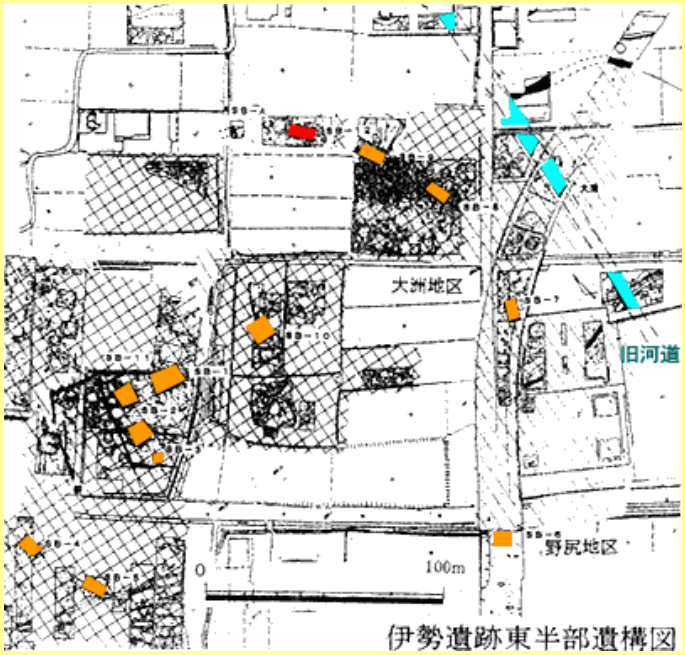
（7）床の下は、粘土（厚さ 30cm）で入れ替えられていた。



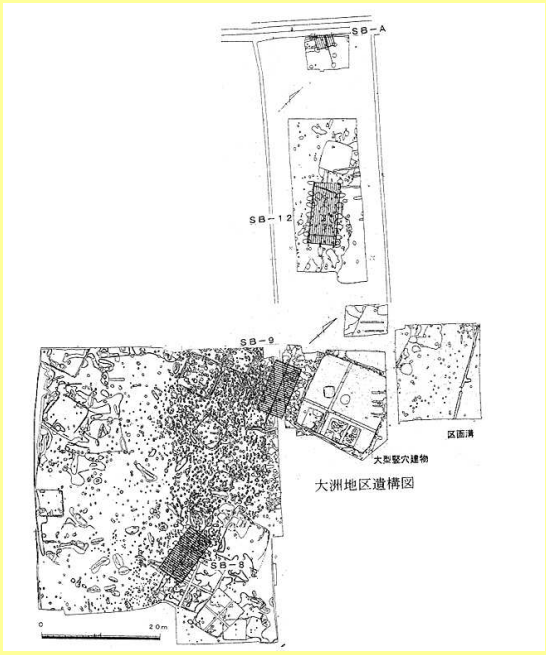
(8) 床は精良な粘土を厚み 6～8cm ほど貼り、高温で焼いて仕上げていた。焼床部分は壁沿いや建物中央には見られず、ドーナツ状に広がっていると考えられます。

(9) SH－1 の北側で 9.0m×9.2m の竪穴住居（SH－2）が検出され、出土土器から SH－1 より新しいと考えられる。

(10) SH－1 の東側約 10m の地点で南北方向に伸びる溝（幅 30cm、深さ約 5cm）が検出され、区画溝と考えられる。



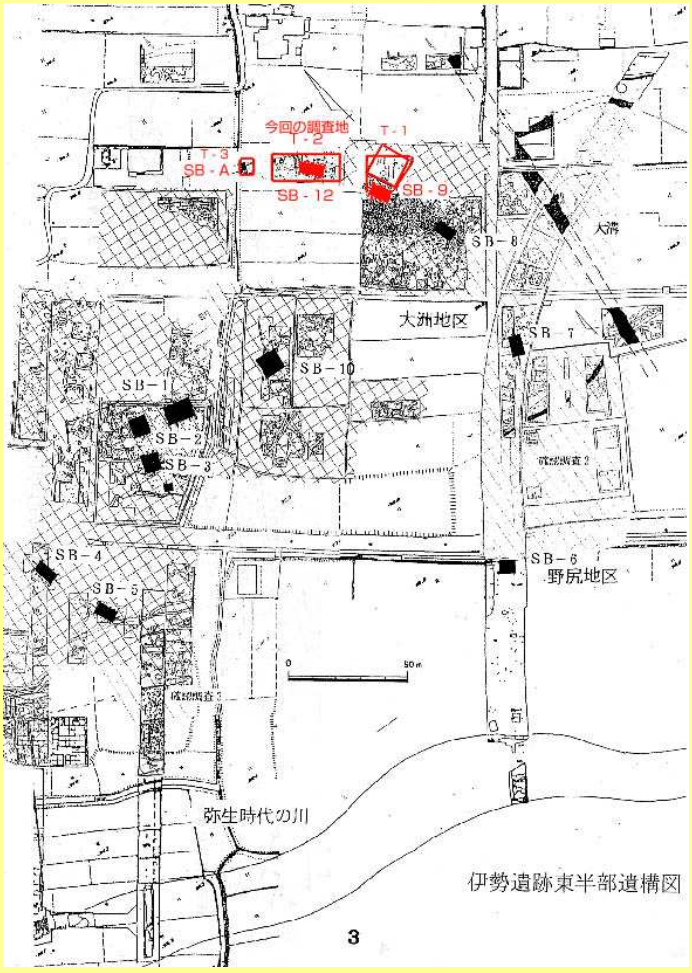
伊勢遺跡東半部遺構図

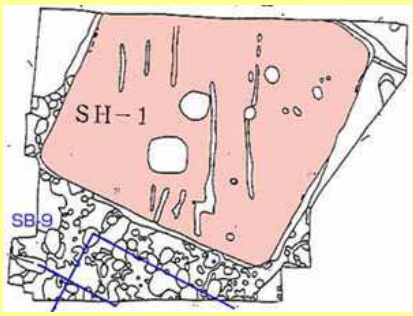


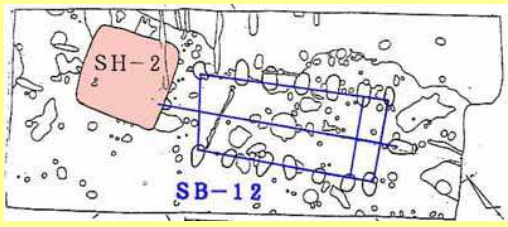
大洲地区遺構図

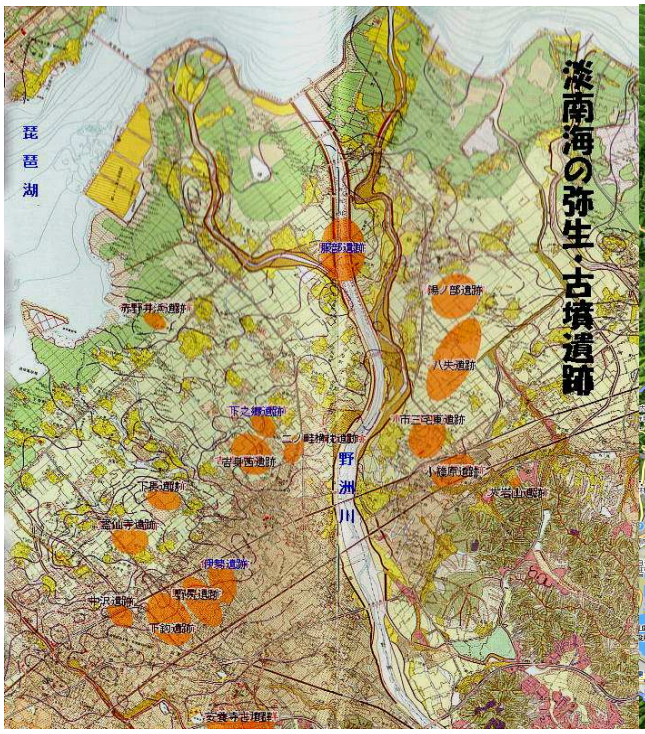
2001 年発掘調査図面

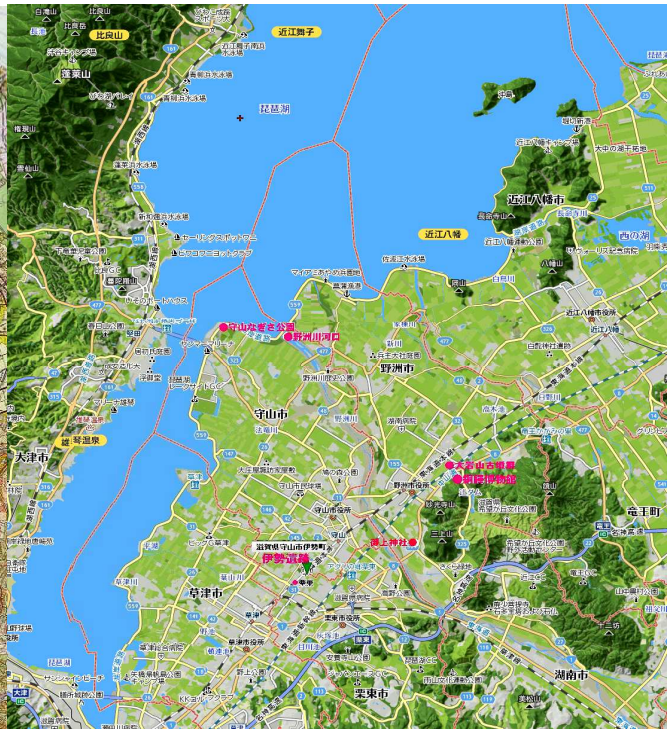
http://www.gensetsu.com/011208ise/ise_doc1.htm







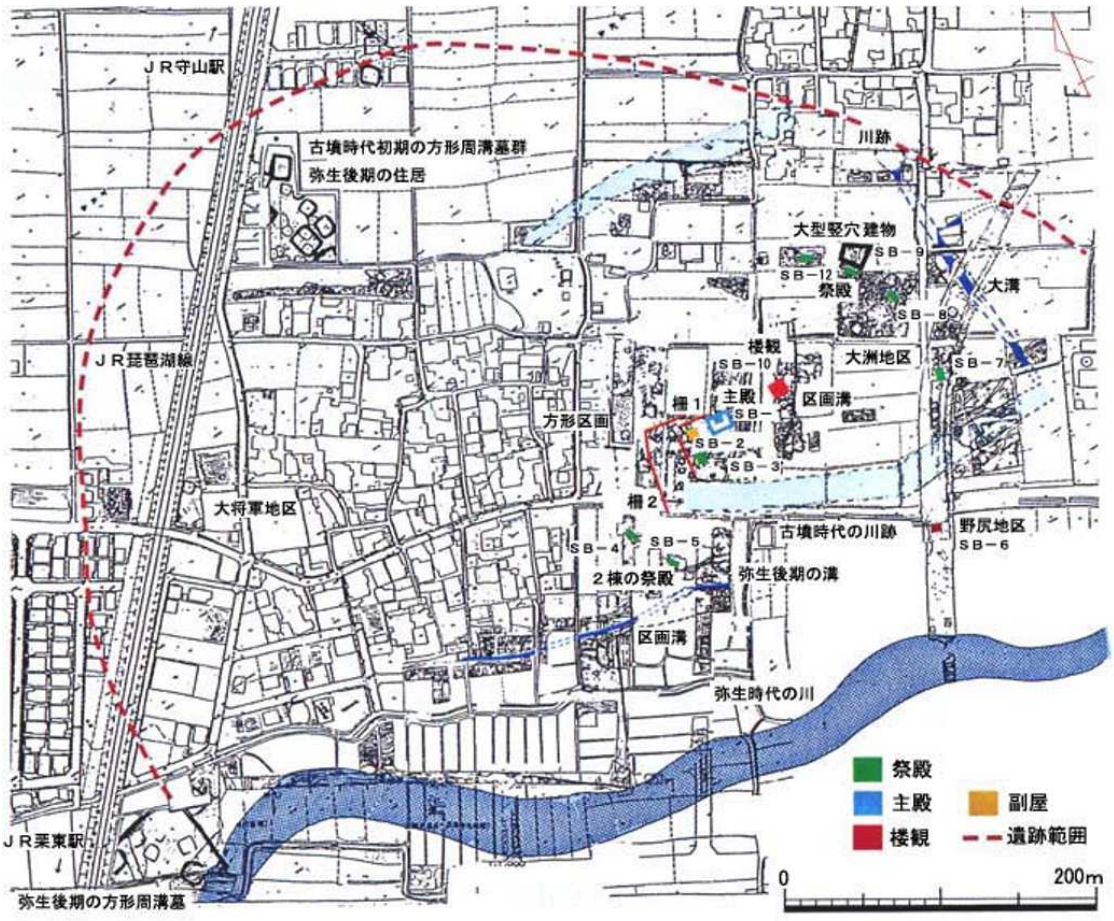

琵琶湖
野洲川
服部遺跡
赤野井浜遺跡
祇ノ部遺跡
八夫遺跡
下之郷遺跡
二ノ畔横枕遺跡
市三宅東遺跡
吉身西遺跡
小篠原遺跡
下長遺跡
光岩山遺跡
冨仙寺遺跡
伊勢遺跡
中浜遺跡
野尻遺跡
下鈎遺跡
安養寺古墳群


近江舞子
琵琶湖
近江八幡市
近江八幡
野洲市
守山市
大津市
草津市
栗東市
竜王町
湖南市
守山なぎさ公園
野洲川河口
琴浦泉
伊勢遺跡
建上神社


伊勢遺跡


伊勢遺跡




ＪＲ守山駅
古墳時代初期の方形周溝墓群
弥生後期の住居
川跡
大型竪穴建物
ＳＢ－９
ＳＢ－12
祭殿
大溝
ＳＢ－８
楼観
ＳＢ－10
大洲地区
ＳＢ－７
ＪＲ琵琶湖線
柵１
主殿
ＳＢ－
区画溝
方形区画
ＳＢ－２
ＳＢ－３
柵２
大将軍地区
古墳時代の川跡
野尻地区
ＳＢ－６
ＳＢ－４
ＳＢ－５
２棟の祭殿
弥生後期の溝
区画溝
弥生時代の川
祭殿
主殿
副屋
楼観
遺跡範囲
ＪＲ栗東駅
弥生後期の方形周溝墓
0
200m

魏志倭人伝の記述《卑弥呼の居処には「宮殿」・「祭殿」・「楼閣」・「城柵」》すべてがそろう大集落

2. 卑弥呼がいたかも？東近江　弥生後期の大集落「伊勢遺跡」を訪ねる　2012.11.21.

2012年11月の末の晴れの朝　楼閣・宮殿・祭殿がそろった弥生後期の大集落　東近江の伊勢遺跡見学へ

卑弥呼の宮殿といえば「九州　吉野ヶ里」「大和　纒向」と思っていたのですが、「楼閣・宮殿・祭殿がそろって出土した大集落が東近江にあり、卑弥呼がいたことも想定される」と聞いてもう　びっくり。それも　何度も足を運んだことがある栗東・守山の湖岸近く・・・・。

東近江は東海道・中仙道が通る東西交通と海路琵琶湖による北陸・山陰そして大陸と瀬戸内・大和・東国への南北交通の十字路。渡来人も数多くやってきたところであるばかりでなく、この道筋には数多くの遺跡が点在し、縄文・弥生時代からすみ告がれてきた場所である。

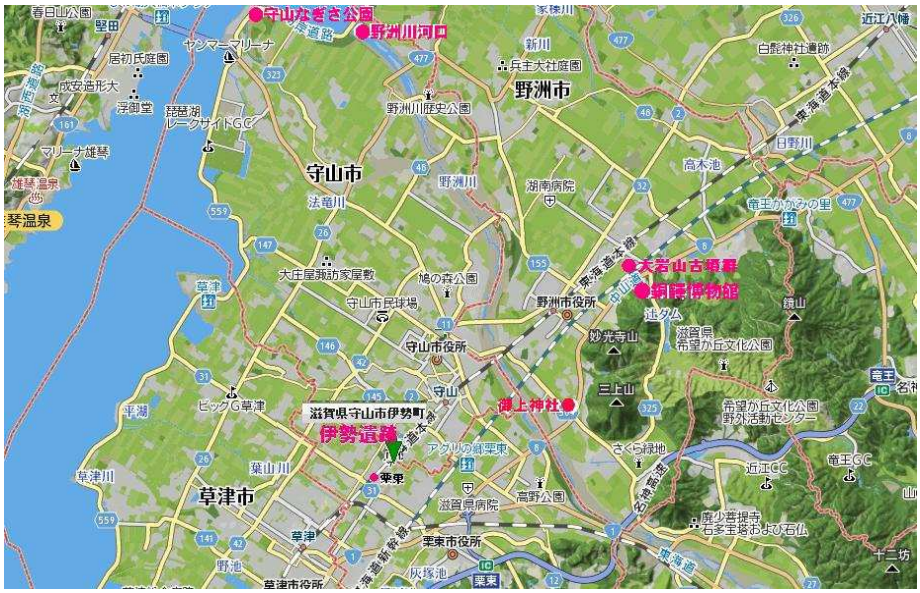
日本各地で「卑弥呼の国の所在地」の名乗りが上げられる中、「東近江」が名乗りを上げても不思議でない。しかも　魏志倭人伝が伝える卑弥呼の居所「宮殿・祭殿・楼閣・城柵」遺構がそっくりそろって出土したのはこの東近江「伊勢遺跡」のみと聞く。

「遠く比良・伊吹・鈴鹿の山々を遠望する琵琶湖岸に注ぐ野洲川の河口近く　延々と広がる近江平野の心臓部
緑の中にこつぜんと柵をめぐらした宮殿・祭殿・楼閣が建ち、そこへ向かって物資を運ぶ多くの人が往来する。
また、この集落には武器がなかったという。」

素晴らしい光景イメージに胸が膨らむ。　今もそんな光景がイメージできるだろうか・・・・・・。

前日インターネットで調べると詳細はよく判らないのですが、所在地は「守山市伊勢町」

栗東市は「草津」の東隣（新幹線・鉄道・道路の幹線が琵琶湖東岸沿いを東北に走る東近江。正確には北東なのですが、関西での感覚は東）。琵琶湖東岸に広がる近江平野のほぼ中央部、古くは東海道・中仙道（北国街道）の分岐点で、今も日本の大動脈　新幹線・高速道路・国道1号・8号線が通り、新しい工場団地群新興住宅地が建ち並んで、新興都市として発展中の街。



湖岸を南北に走るJR東海道線栗東駅と守山駅間で、線路沿い東側　守山市と栗東市の境の守山市伊勢町集落の中に伊勢遺跡があるという。





地図で見ると栗東駅の方が近いので、新快速に乗って、草津で快速に乗り換えて、栗東駅から歩くことにする。一つ目が栗東駅。神戸から1時間30分弱で到着。

栗東駅の南側駅前にはよく整備されたロータリーに高層アパートや新しい商店が建つ以下にも新しい街。「伊勢遺跡」の案内板があるだろうと探しましたが、何もなく、駅前で聞いてもちんぷんかんぷん。はっと気がついて、「ここは栗東市」と。

場所の概略わかっているので、線路に沿って10分ほど北へ歩くと新しい住宅の建ち並ぶ道の曲がり角に「ここは

伊勢町」と書かれた案内板があり、伊勢町の集落へ入る入口だった。
ここから奥へ伸びる道を入ってゆくと、古くからの伊勢町集落の家並みが続く。

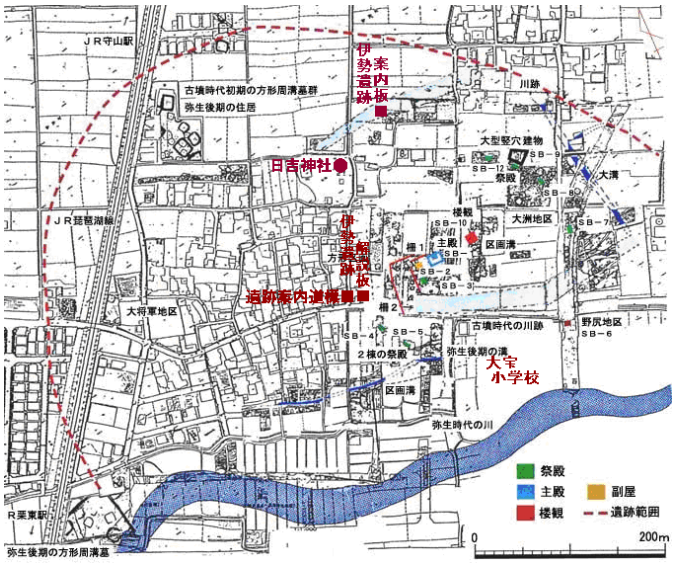


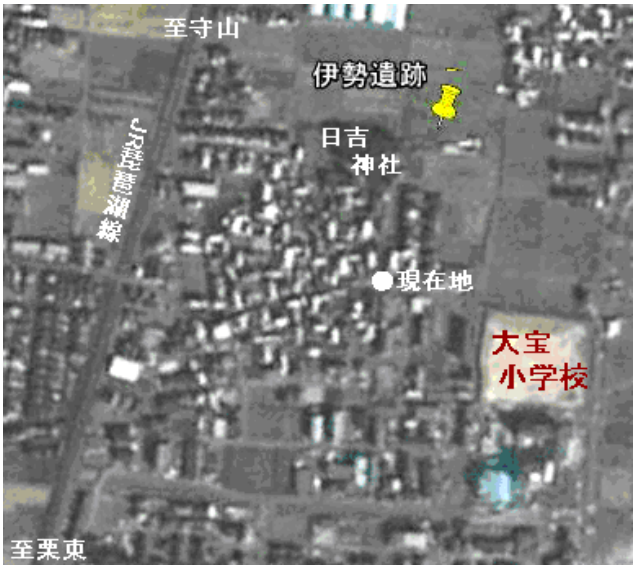
守山市伊勢町の集落入口周辺　道に沿って新しい家並みが続く



奥へしばらく歩くと古い集落内へ

古い家並みと新しい家並みが入り混じる町並みを眺めながら、集落内を右手南へ曲がって、少し行くと左手東奥へ入る細い道があり、角に「←伊勢遺跡」と書いた遺跡案内版があり、この道を進むと神社の際から伊勢遺跡の発掘調査草地に出る。また、この「ト字路」のすぐ南側左手道に沿って建ち並ぶ建物・倉庫の手前に小さな公園があり、そこに伊勢遺跡の概要を示した「遺跡案内板」があり、この建物が建つ周辺も発掘調査がなされた伊勢遺跡内と知れました。
更に其の先南側は視界が開け、田園がみえ、右手には大宝小学校の校庭が見えている。
地図によれば、この位置が伊勢集落の南東角端にあたり、この位置周辺が伊勢遺跡の中心部のようだ。









伊勢遺跡の発掘調査地の草原への案内標識がある「ト字路」





「ト字路」の先　道の左側に伊勢遺跡の解説板のある小さな公園が新しく建てられた倉庫・建物の手前にある



道の先　南側から北の伊勢遺跡へ入る「ト字路」や伊勢町集落を眺める



道の先　南側からは北側に　田園の中に広がる伊勢遺跡　中心部　左手建物も遺跡の上に建っている

公園にある案内板によると　写真の左手　倉庫から右手田園の道際に弧状に「柵」があり、

建物の向こうの田園地から右手奥の田園地に　主殿・楼閣・祭殿が建ち並ぶ遺跡の中心地







道の角にあった伊勢遺跡の解説板

伊勢遺跡の発掘調査された草地へ行くため、伊勢町集落の東南角の「ト字路」へ戻り、集落の家並みの間の細い道を奥へ入ってゆく。 道の奥に見えていた森が、日吉神社の森で、其の横のあぜ道を抜けると　ぱっと広い草地の広場が広がり、その一角に伊勢遺跡に建ち並んでいた建物を描いた案内看板が建ててありました。







現在はもう埋め戻されて草地になっている伊勢遺跡発掘調査地への小道とその脇にある日吉神社の森



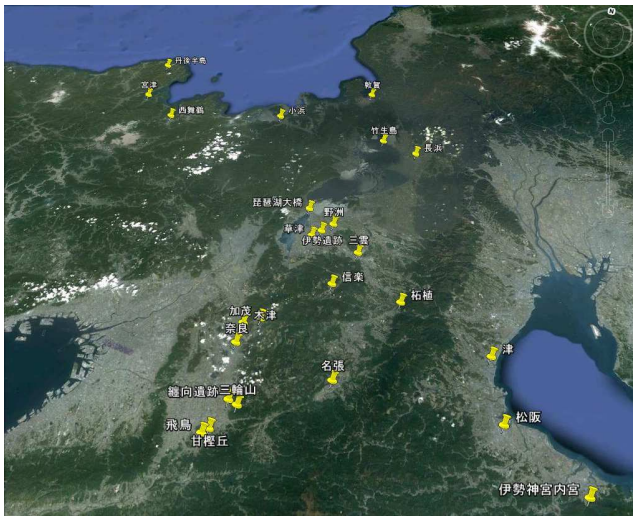
伊勢遺跡発掘調査地　左端の北側に　伊勢遺跡の標識と説明版　右端の西側に伊勢遺跡復元案内板が見える







伊勢遺跡の案内板のところ、広大な伊勢遺跡の中心部に建ち、ぐるりと四方を眺める。
北西側のJR琵琶湖線の後ろには比良山系の山々が遠くに見え、南東側　草地の向こうには東近江の象徴近江富士・三上山がちょこっと顔を出し、この間を琵琶湖そして鈴鹿から流下り琵琶湖に注ぐ野洲川で、広い野洲川デルタの一角。また、ぐるっと眼を南に転じると田園・建物越しに金勝・信楽の山が遠く顔をだしている。　この地に都市機能を持つ大集落があった弥生後期には、この集落の望楼に立てば、それらが見渡せ、それらをランドマークに　北の山陰・若狭・北陸　西の瀬戸内・大和そして東の伊勢−東海へと道が通じ、この地が本州の交通の要衝で、日本各地そして　大陸と交流していたことが窺える。





遺跡西側から伊勢遺跡全景



a.　伊勢遺跡　北西側から南東側にかけて



b.　伊勢遺跡　南東側から南西側



c. 伊勢遺跡　西から北西側　伊勢集落日吉神社の森から遠く比良の山々



伊勢遺跡　北側を眺める　　2012.11.21.　　右端　西に比良　左端　東に近江富士が見えている







伊勢遺跡　南側を眺める　　2012.11.21.　　左端に近江富士右端に田上の山並

この山並の間を鈴鹿から野洲川流れ下り、その川筋を溯り鈴鹿から伊勢・東国や信楽・大和への古道が続く

今はもう埋め戻されて何もない草地ではあるが、ここに整然と楼閣・宮殿・祭殿そして、幾つもの大型建物が建ち並び、ここに卑弥呼がいて、日本各地の人達が集まったと考えると楽しくなる。
その繁栄のシンボルは　なだらかでどこまでも青々と広がる野洲川のデルタ大地とそれを取り巻く山々か???
祭殿の向こうにシンボリックな姿で見える三上山は神奈備山白い雪をいただく南の鈴鹿　西の比良　東の伊吹
楼閣からは美しい景色が見渡せたに違いなく、ゆったりとした穏やかな空気が漂う空間。それらが日本各地の人々をひきつけたに違いない。
遺跡の中をあちこち歩き回っては立ち止まって　もう少し景色が良く見える位置がないかと探すのですが、周囲はとしかが進んで、山端まで見渡せる場所話し。
ひとしきり、遺跡の景色を楽しんで、隣接する畑の古老に声をかけ、遺跡の広がりや伊勢町について色々教えてもらう。

古老に教えてもらった話しが守山市の広報「もりやま」2006.7.1.号「もりやまの街の由来　伊勢の巻」から
転記して「もりやま季節だより」に掲載されていましたので、ご参考まで。

もりやまの町の由来／もりやま季節だより

シリーズ6

もりやまの町の由来

伊勢の巻

皆さんは、自分たちの住んでいる町の由来をご存じですか。このシリーズでは、市内の各町の由来を探っていきます。

守山の中で正方形の土地区域となっているのは、伊勢町だけで、東西六町（約654m）、南北六町の規模で、周囲が道と川で区切られています。

後花園天皇の康正2年（1456年）のとき、皇居造営費用の2貫目876文を献上した伊勢平左衛門や、長享元年（1487年）に足利義尚が佐々木高頼を討ったとき江州伊勢又六がいたことは名高く、伊勢の住人であったようですので「伊勢」の名はこのころ以前にさかのぼると考えられます。

伊勢参りの旅人が中山道から東海道へ行くのに、この伊勢を通過し、ここから栗東市伊勢落（伊勢落は伊勢大路ともいわれました）へ通じる道を伊勢道といいました。伊勢の神社は日吉神社で皇太神宮もまつられています。皇太神宮の祭神は天照皇大神です。この地が、昔伊勢神宮の神領であったという説もあり、伊勢神宮の元があったともいわれています。寺は永願寺と呼ばれ、かつて天台宗でしたが真宗に転派しました。江戸時代、この寺には高僧がいて徳山と名乗っていました。徳山のもとには、遠く福井や秋田から弟子入りがあり、安政2年（1855年）に徳山は越前三国で没しています。

昭和56年には伊勢遺跡が発見され、弥生時代後期から鎌倉時代までの巨大な集落が広がっていたことが明らかとなりました。その後の発掘調査で、弥生時代後期の大型建物が集中することが判明し、邪馬台国の所在地や国の成り立ちを探ることのできる遺跡として国内で話題となっています。



伊勢遺跡方形区画復元図（大上直樹氏作成）

文化財保護課　☎（582）1156

もうすこし、山々や琵琶湖を眺められる場所はないかと地図と見比べながら、遺跡の東側にでて、ダイハツの工場の南側に新幹線が走りぬけるあたりに広い田園があるので、そこへ見ようと。
時間があれば、野洲川の土手　そして　琵琶湖湖岸にも行きたかったのですが、日が暮れるのが早い冬　時間的に無理だったので、やめて、周辺をぶらぶら歩こうと。
でも　この遺跡の北東側の野洲川河口の湖岸には　近畿で一番先に咲く菜の花畑があり、黄一色の菜の花と琵琶湖越しに雪のかぶった比良を見る観光名所「守山なぎさ公園」がある。菜の花が咲いたら、再度守山へきて
菜の花と野洲川の河口からの景色を眺めようと算段して、琵琶湖側とは反対の南東側へ出て、大宝小学校の横（ここは栗東市）をまっすぐ南へゆき、北東へ伸びる広い通りに出て、この道を少し行くと　南側にダイハツディーゼルの大きな工場が見えてくるので、この道を渡り、南のダイハツディーゼルの大きな工場の正門前から塀際に沿って工場の南側

へ回りこむと広い草原。
目の前を新幹線の高架堤が北東から南西に延び、この向こう左手に三上山　右手に金勝山が顔を出す。　新幹線の土手は別にして　こんな風景が弥生の時代には広がっていたのだろうか・・・・
この二つの山の間を奥にすすめば、鈴鹿の山越えをして伊勢・大和　また　右手金勝の山を越えてゆけば、信楽から大和へと行く、古代からの幹道である。



遺跡の南側　東海道新幹線越しに左:三上山　右:金勝山の山並を眺める



三上山の前を走りぬける新幹線



遺跡の南側　東海道新幹線の高架堤を潜り抜けた南から　左:三上山　右:金勝山の山並を眺める

JR 琵琶湖線の高架橋からなら「伊勢遺跡の全体が上からながめられるかも?」と伊勢遺跡の東側　千代町の交差点へ戻り、琵琶湖へ通じる広い大通りを JR 琵琶湖線の伊勢町高架橋へ。　でも残念ながら全景は眺められず。



千代町の交差点



琵琶湖岸へ続く大通り



伊勢町の JR 跨線橋




誇線橋の上から東　左　守山駅方面　　右　三上山



誇線橋の上から西南　栗東駅方面　線路の左側奥が伊勢遺跡なのですが、残念ながら建物で見えず



伊勢遺跡の北側　線路越しに　南側の伊勢遺跡を眺める

東近江　近江平野中央　野洲川の琵琶湖岸デルタに弥生後期　卑弥呼が現われる直前に　卑弥呼が住むところとして魏志倭人伝に記された「楼閣」・「宮殿」・「祭殿」・「柵」を有する唯一の都市機能を有した大集落「伊勢遺跡」が出土した。　話を聞いて胸ワクワクで出かけましたが、都市化が進む守山市・栗東市の境界部に良くぞ残った空間。
おだやかな空気の流れる広々とした空間が残っていました。あまり触ってほしくないなぁと。
野洲川河口周辺へ行けなかったので　次回再挑戦です。

【写真アルバム】

3.　琵琶湖 野洲川河口　守山市なぎさ公園の菜の花畑に一足早い春を訪ねる　2013.2.11.

なぎさ公園から眺める早春の琵琶湖・近江富士（三上山）・御上神社



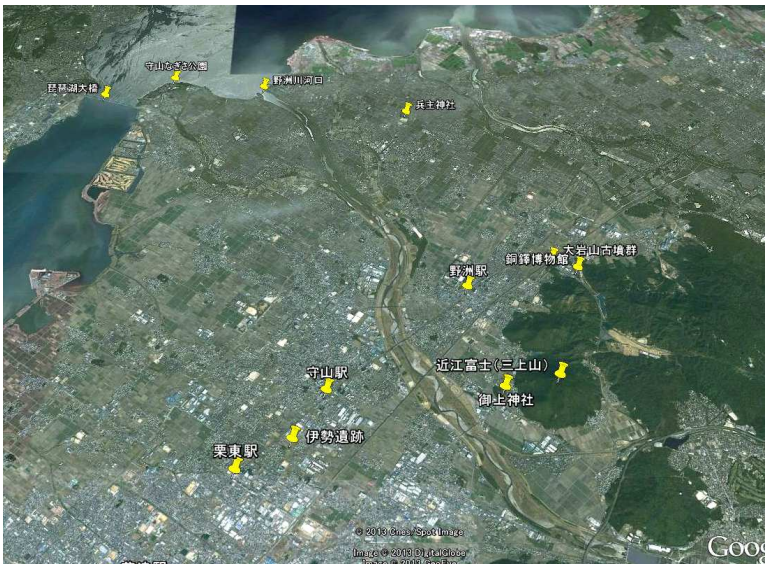
野洲川河口の琵琶湖岸　守山市なぎさ公園　春はもうそこまで　雪の比良を背に一面まっ黄の菜の花畑　2013.2.11.



琵琶湖野洲川河口から　中央左手:近江富士（三上山）川向こう中央右手:金勝山と伊勢遺跡のある守山市・栗東市周辺

昨年 12 月　近江平野中央　東近江　野洲川の琵琶湖岸デルタに出現した卑弥呼が住んでいたとの説もある大集落「伊勢遺跡の見学に訪ねましたが、遺跡から垣間見える周囲の山々や琵琶湖・野洲川に思いをはせるも、実際に訪ねることが出来ませんでした。　この琵琶湖野洲川河口には菜の花畑があり、琵琶湖越しに見る比良の山々とあわせ、関西で一番先に春を伝える観光名所で何度か訪れたことがある。

この野洲川河口「守山市なぎさ公園の菜の花が満開になった」と聞いて、再度野洲川河口や野洲川デルタそして其の背後に聳える東近江のシンボル三上山山麓の御上神社・銅鐸博物館を訪ねました。



三上山は近江平野のどこからも其の秀麗な姿を遠望でき、「近江富士」とよばれる東近江のシンボルで、卑弥呼がいたといわれる伊勢遺跡からもすぐ近くに見晴らせ、伊勢遺跡そのものや祭殿もこの三上山を意識して集落があったと思っている。
この三上山の東北山麓　近江平野に突き出た丘大岩山から、この伊勢遺跡が栄えた同時代の弥生の後期に丁寧に埋納された 24 個の銅鐸が出土。　銅鐸を祭祀のシンボルとしてきた弥生時代の終焉そして古墳時代の始まり（鏡・鉄の時代）を見てきた地として。現在は伊其の地に銅鐸博物館が建ち、伊勢遺跡とも深い関係にある。



大岩山銅鐸

大岩山からは 1881 年に 14 個
1962 年に 10 個計 24 個の銅鐸が出土。
この中には日本最大の銅鐸がある。



近江富士（三上山）（432m）

近江平野の中央野洲川の東岸の独立した円錐形の美しい山。山麓にご神体山とする御上神社や銅鐸博物館がある



伊勢遺跡　守山市伊勢町

卑弥呼がいたという楼閣・宮殿・祭殿がそろって出土した東近江　弥生後期の大集落

琵琶湖の向こうに雪の比良をバックに一面まっ黄色になった菜の花畑そして　何度か通ったことがあったのですが、あまり意識していなかった野洲川河口を見たくて　「琵琶湖に春を探しに行こう」と家内の運転で 2 月 11 日休日の朝神戸から栗東へ。　何度かでかけたことがあるので、道は大丈夫。でも　晴れてはいるのですが、東の空には雲。京都の北山や東山には雲がかかっている。「今日は比良が見えないかも・・・。　雪の比良をバックに菜の花畑が見たかったのに・・・・」と。　でも、宇治の山を越えて草津に入ると雲が切れてきて一安心。
神戸から 2 時間弱で近江富士を眺めながら栗東のインターを出て、今日は琵琶湖岸へまっしぐら。

この東近江　野洲川デルタに卑弥呼がいたという伊勢遺跡の時代をダブらせながらの「東近江　琵琶湖で見つけた一足早い春」の写真アルバムです。



- **野洲川河口の琵琶湖岸　守山市なぎさ公園　　雪の比良を背に一面まっき色の菜の花**
  雪の比良をバックにしたまっ黄色の菜の花畑もばっちり。
  また、菜の花満開の湖岸から見る琵琶湖には、エリ漁の仕掛けがみられました。
  エリ漁のしかけも年々減ってしまって見られないと聞いていたのでラッキーでした
- **野洲川河口　－ まだまだ寒い早春の琵琶湖 ＆　近江富士遠望の野洲川土手の風景 －**
- **近江富士 三上山山麓の 御上神社・銅鐸博物館を訪ねる**

3.1.　野洲川河口の琵琶湖岸　守山市なぎさ公園　2013.2.11.

雪の比良を背に一面まっき色の菜の花　　春はもう　そこまで



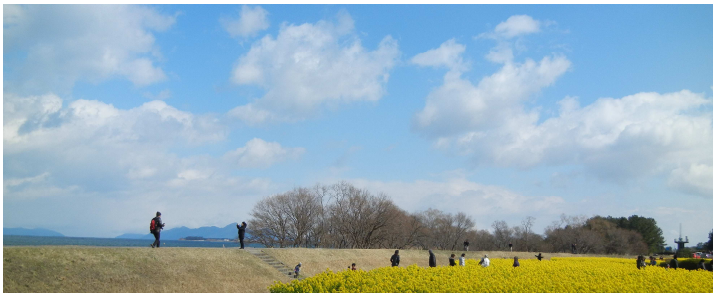
守山市の田園地帯を北西の琵琶湖大橋周辺の湖岸へ向かう



琵琶湖大橋近く　国道 477 で

比叡・比良の山並の南側は雲の中　でも琵琶湖大橋に近づくにつれ、くっきりと













琵琶湖と反対側　南西側には菜の花畑の向こうに東近江のシンボル　近江富士　　2013.2.11.







一面まっ黄色の菜の花　琵琶湖の向こうに雪の比良蓬莱山・打見山　ここだけはもう一足先に春　2013.2.11.



守山は琵琶湖エリ漁の発祥地　なぎさ公園沖にもエリ漁の仕掛け　　2013.2.11.

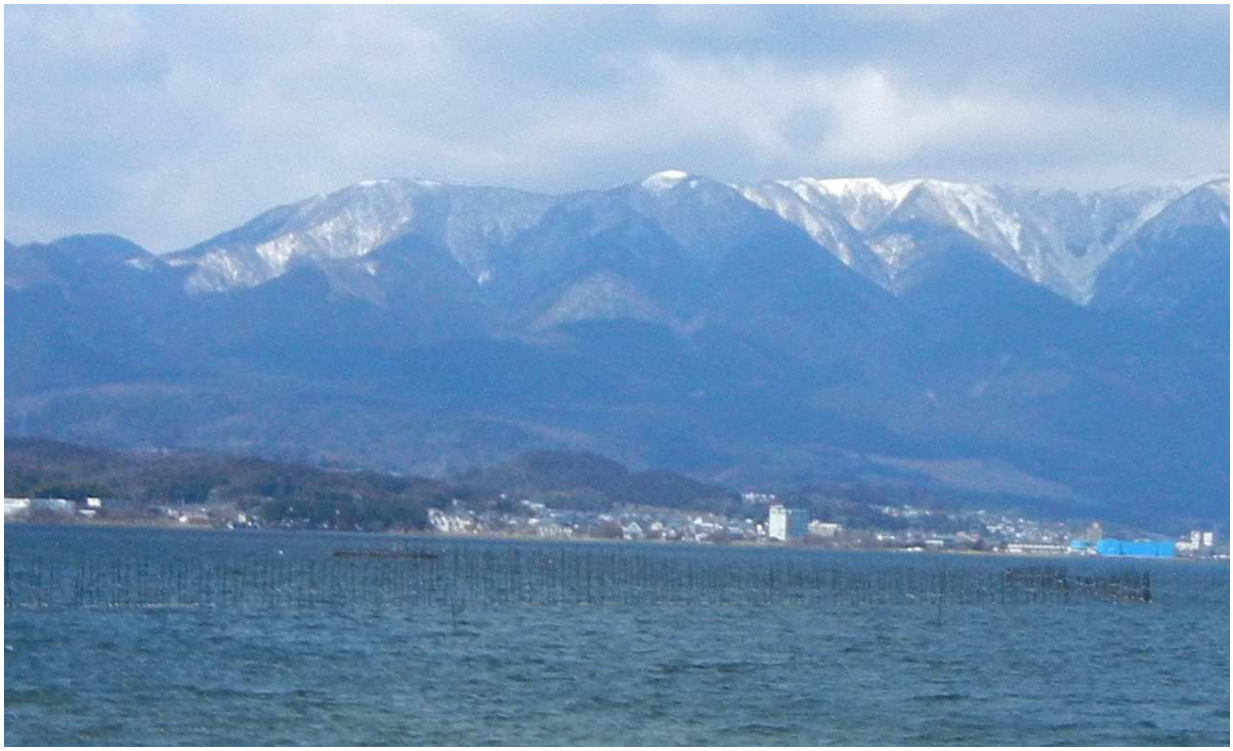


琵琶湖の湖面にはエリ漁の仕掛けの柵　早春は「鮎の稚魚・氷魚」のエリ漁の最盛期　2013.2.11.



えり漁は伝統的な琵琶湖の漁法で、定置網漁の一種で、魚が障害物にぶつかるとそれを移動する習性を利用し狭い囲いへ誘導する漁法です。漁具には、竹、ヨシ、杭などの自然の素材が利用される。

守山漁港はエリ漁発祥の地といわれ　体が透き通っているところから「氷魚（ひお）」と呼ばれて珍重される稚アユは、三月までが勝負だという



守山市なぎさ公園湖岸沖に仕掛けられたエリ漁の仕掛け　　2013.2.11.



湖岸道路の前方広い近江平野の田園の向こうに近江富士



防風林が続く湖岸道路の向こうに野洲川河口にかかる大橋

なぎさ公園から湖岸道路を東へ野洲川河口へ向かう　5 分ほど走れば　野洲川の河口にかかる中洲大橋

湖岸には琵琶湖を吹き渡る「比良おろし」の防風林が湖岸道路に沿って続く

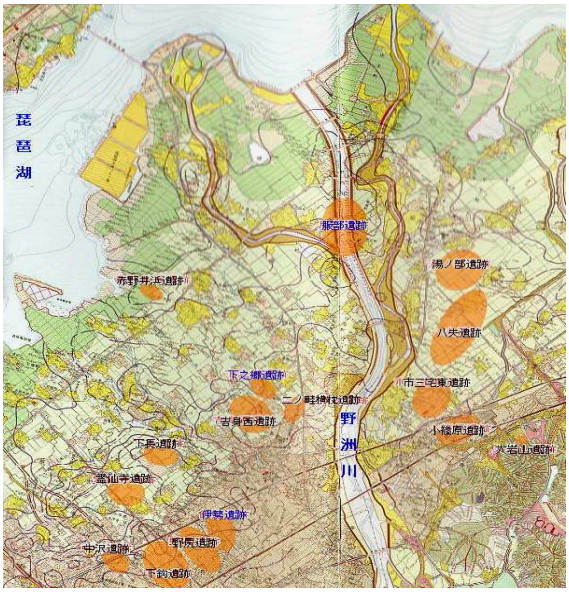
3. 2.　琵琶湖　野洲川の河口の風景



野洲川河口から川越しに遠望する東近江　守山・栗東　左手奥に近江富士　右手奥に金勝・信楽の山並



野洲川河口には船溜まりの掘割港



野洲川デルタの弥生・古墳時代の遺跡



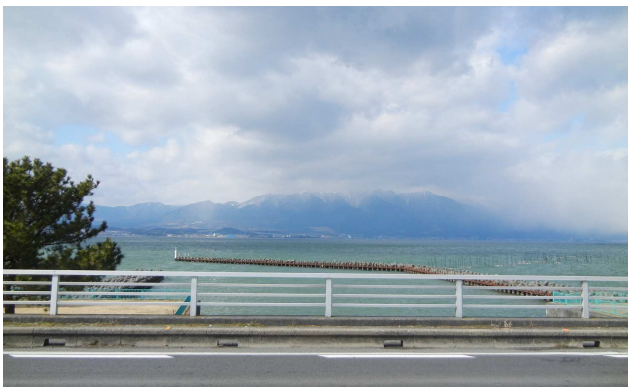
野洲川河口の中洲大橋を渡り、野洲市側から遠望する野洲川土手の向こうが守山・栗東　2013.2.11.

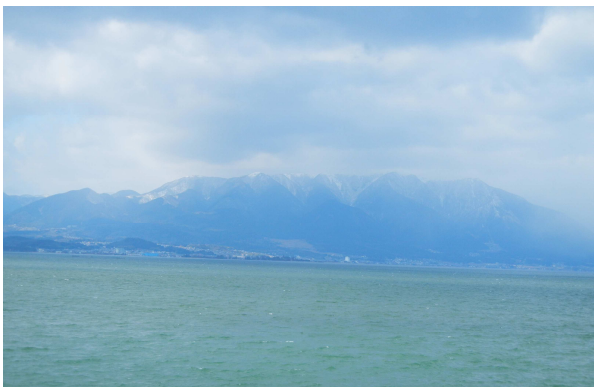


中洲大橋から眺めた琵琶湖対岸　2013.2.11.



果樹園が広がる野洲市側　　野洲川土手から遠望する近江平野　守山・栗東方面　2013.2.11.



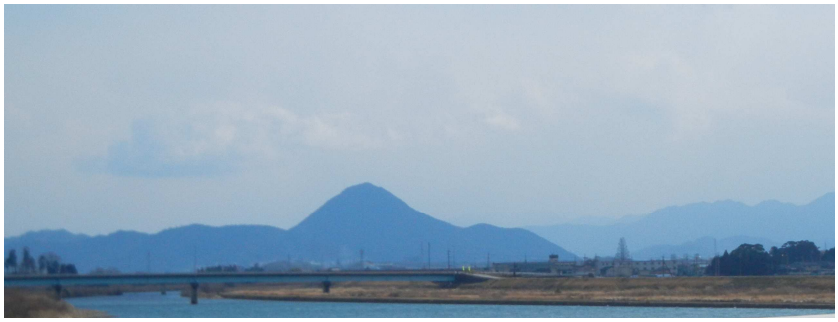


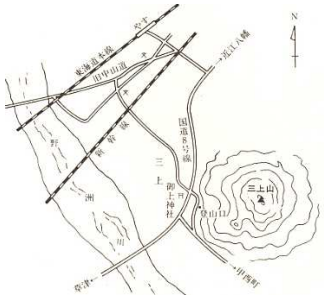
琵琶湖冬　比良の山並から近江平野に吹き降ろす北西の季節風　比良おろし

早春の東近江の湖岸　まだまた　冷たい風も吹いていました



3.3.　近江富士「三上山」山麓に御上神社・銅鐸博物館を訪ねる





琵琶湖湖岸の野洲川河口から　田園地帯を東　三上山の麓　野洲の街へ







田園地帯の中の小さな森にこんな立派な兵主神社　鉄と関係の深い大国主命が祭神

渡来人・鉄と関係の深い近江　近江遷都の際に大和から移ってきたという

近江は大和の東 都祁 - 近江の南の柘植 琵琶湖を通じて若狭・大陸とつながる

兵主神は天日槍との関連が深いといい、近江は天日槍の後裔とされる息長氏の拠点

渡来人の繋がり　●磯城-山城-近江-越・若狭-出雲-新羅　●葛城-難波-吉備-筑紫-百済



野洲の市街地を走りぬける国道８号線を挟んで　三上山を御神体山とする御上神社前から見る三上山

近江平野のどこから見ても円錐形に見える独立峰の美しい山で近江富士ともよばれる近江のシンボル

俵藤太の百足退治の伝説を持つ山としても有名

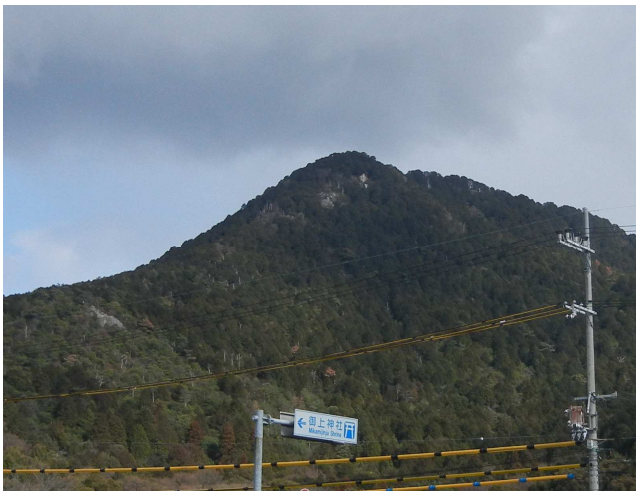
この御上神社前からは近すぎて　隣の小山が重なって、遠くから眺める方が美しい













御上神社　三上山（標高 432m）の山麓に鎮座し、三上山を神体山として祀る近江一の古い社

祭神は 天之御影命 （あめのみかげのみこと）鍛冶の神である天目一箇神と同一神とされ、

ここにも鉄・大陸と関係の深い近江の姿が浮かび上がってくる

境内には国宝の本殿のほか、重要文化財の拝殿・楼門・摂社若宮本殿・狛犬が残っている





三上山を北側に回り込んだところが銅鐸出土地大岩山　その山際近くに銅鐸博物館が建っていた

大岩山からは 1881 年に 14 個　1962 年に 10 個計 24 個の銅鐸が出土。この中には日本最大の銅鐸がある。

銅鐸博物館にはこの大岩山から出土した銅鐸の出土時の様子や銅鐸の時代の流れが展示されていました

4.　まとめ

まだ少し冷たい比良おろしが吹く野洲川河口の湖岸《守山なぎさ公園》には菜の花が咲き乱れ、一面まっ黄色。
コバルトブルーの大海が広がる湖面には　エリ漁のしかけ。そして対岸向こうには雪を戴いた蓬莱・打見山。
もう一足早い春。
ゆったりとした空間が流れて、これが東近江の春。
　また、この琵琶湖岸の野洲川デルタには　弥生時代後期　宮殿・祭殿・望楼などの大型建造物が建ち並び、日本各地はては大陸からやってきた人達が交流する先進的な大集落「伊勢遺跡」があり、卑弥呼がいたという説もある。
その隆盛の源泉は琵琶湖・野洲川による人・物流と豊穣の近江平野か・・・
集落をとりかこむなだらかな自然の景色が穏やかな空気を漂わしていました。

弥生から古墳時代への移り変わりに先進的役割を果たした《伊勢遺跡》
遺跡が形成された野洲川が注ぎこむ湖岸はどんな場所だろうと興味津々での探訪。
遺跡のすぐ向こうにはシンボリックな近江富士が集落を見守り、
集落を少し出ると大河野洲川デルタに広大な近江平野が広がり、
其の先には野洲川河口と琵琶湖の覆う身となだらかな峰を連ねる山々が遠く遠巻きに平野を取り囲む肥沃の地。
豊かでおだやかな空気が満ちている。
交通の要衝にある肥沃の地が穏やかな気風の弥生の先進的大集落を生み、卑弥呼の邪馬台国・そして初期大和王権への道を切り開く先進的役割を果たしたのだろうと。
比良から吹き降ろす風にちょっぴり震えながらも、周りの景色を眺めながら　そんなことを考えていました。
また、見渡す琵琶湖　東近江はもう一足早く早い春の景色で一杯。
心地よい　琵琶湖・野洲川河口探訪に満足でした。



琵琶湖　野洲川の河口　守山なぎさ公園はもう一足早い春　菜の花が一面に





鈴鹿の山々が連なる南から北の琵琶湖へ近江平野の中央部を形成して流下る近江の母なる川　野洲川



大岩山銅鐸

大岩山からは 1881 年に 14 個
1962 年に 10 個計 24 個の銅鐸が出土。
この中には日本最大の銅鐸がある。



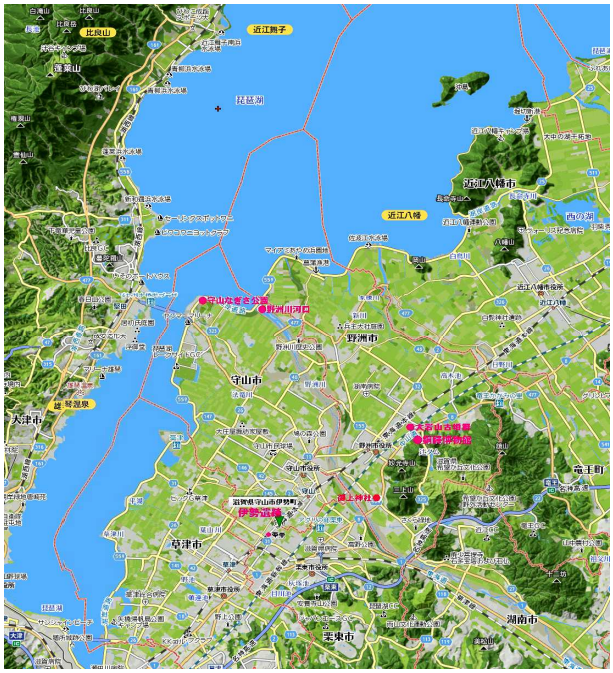
近江富士（三上山）（432m）

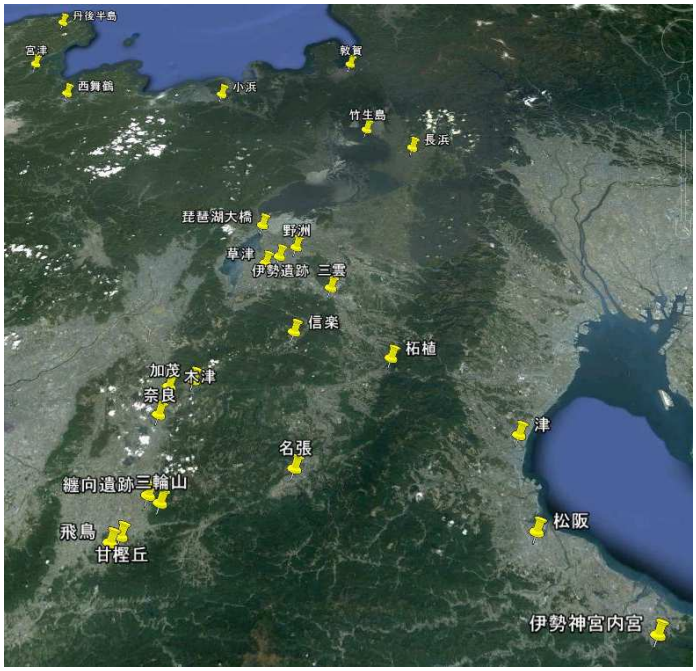
近江平野の中央野洲川の東岸の独立した円錐形の美しい山。山麓にご神体山とする御上神社や銅鐸博物館がある



伊勢遺跡　守山市伊勢町

卑弥呼がいたという楼閣・宮殿・祭殿がそろって出土した東近江　弥生後期の大集落





2013.2.20.　by Mutsu Nakanishi